

		測定する能力	
論理的言語力	論理的読解力A	論理的読解力B	論理的思考力
日本語を論理的に扱う能力。一文の構造を論理的につかまえたり、「ことばのつながり」、指示語・接続語などを論理的に扱う力。	文章を論理的に読む力。趣旨を的確に把握する力。小説などを客観的に読む力。	文章構造を論理的に解説する力。文と文との論理的関係、段落と段落との論理的関係、文章全体の論理構造を把握する力。	文章の要点を論理的に整理し、まとめる力。論理的に説明する力。おもに記述力・論述力。
			他者に向かって、論理的に話す力。論理的に思考し、自分の考えを論理的に書く力。

問題一

論理的言語力

第一問

■解答 (各3点)

- (1) なし (2) 同級生の一人(が)

■解説

- (1) 「むやみをした」とは、「無茶なことをした」の意味。主語は主人公ですが、省略されています。
 (2) だれがはやしたのかを直前から探すと、「同級生の一人」とあります。

第二問

■解答 (各3点)

- (1) 色づいて (2) 手(手は)

■解説

- (1) 「いつでも」はすぐ下の用言を修飾する言葉です。葡萄ぶどうの房は「いつでも」色づいて「いるのです」。
 (2) 「手」が「大理石のように」美しいということです。

第三問

■解答 (各2点)

- (1) たとえ (2) さえ (3) まるで

■解説

- 副詞の呼応よびあひの問題。
 (1) 「たとえ〜でも」と呼応します。
 (2) そのことだけでいいという意味の「さえ」です。
 (3) 「まるで〜ようだ」と呼応します。

第四問

■解答 (各4点)

- (1) ア (2) エ (3) ウ

■解説

- (1) 「趣味は」↓「めぐりだ」が主語と述語。「私の」↓「兄の」↓「趣味は」、「全国の」↓「温泉」↓「めぐりだ」とつながっています。
 (2) 「私は」↓「納得した」が主語と述語。「先生の」↓「説明に」↓「納得した」、「心

から」↓「納得した」とつながっています。
 (3) 「日本人は」↓「得意だ」が主語と述語。「場の」↓「空気を」↓「読む」↓「こと」が「↓得意だ」とつながっています。

第五問

■解答 (各2点)

- (1) カ (2) エ (3) ウ
 (4) ア (5) イ

■解説

- (1) 例示 後文で具体例を出している。
 (2) 添加 (付け加える)。
 (3) 逆接。
 (4) 理由。
 (5) 順接 (因果)。

問題二

論理的読解力A

第一問

■解答 (各2点)

- 一 カ 二 オ 三 イ 四 ウ

■解説

- 富士山にその時々的心情をうつしている文章です。そこで、「私」の心情を本文から読み取っていきましょう。
 一 Aの最後に「じめじめ泣いて、あんな思いは、二度とくり返したくない」とあることが根拠。
 二 直前の「風呂屋のペンキ画だ。芝居しばいの書割かまわりだ」から、注文どおりの画だと分かれます。
 三 直前の「私たちは、番茶をすすりながら、その富士をながめて、笑った」から判断。
 四 直前の「このひとと結婚したいものだ」と思った「から、富士が結婚を決意させてくれたと分かります」。

第二問

■解答 (6点)

これは、ま

■解説

段落Bと範囲を限定されていることに注意。段落Bの中で、「私」が顔を赤らめることになったのは、段落末尾の「これは、まるで、風呂屋のペンキ画だ。芝居の書割だ」なので、その直前に入る。

第三問

■解答 (各2点)

- ① ア ② ウ ③ イ ④ エ

■解説

主に副詞の問題なので、用言(述語となる言葉)との修飾関係から考えます。
 ①「やけに」↓「見える」、②「いやでも」↓「いなければならなくなった」、③「いよいよ」↓「変」、④「さすがに」↓「(顔を)して」。

第四問

■解答 (5点)

ウ

■解説

「私」の心情を客観的につかむこと。直後で「じめじめ泣いて、あんな思いは、二度とくり返したくない」とあることから、ウ「くるしかったから」が適切。なぜ、苦しかったかという点、「ある人から、意外な事実を打ち明けられ、途方にくれた」とあります。

第五問

■解答 (5点)

富士山頂大噴火口の鳥かん写真

■解説

直前の「富士山頂大噴火口の鳥かん写真」を、「花」にたとえたのです。

第六問

■解答 (各2点)

- A オ B イ C キ D エ

■解説

それぞれの場面での「私」の心情を読み取りなさい。
 A 苦しくじめじめ泣いたのだから、オ「悲しみ」。
 B 「風呂屋のペンキ画」「芝居の書割」から、イ「ありふれていて、つまらな

- C 茶店の老婆が富士の写真を持ち出し、懸命に説明したことから、キ「優しさ」。
- D 富士のおかげで結婚を決意したのだから、エ「感謝」。

問題目 論理的思考力

第一問

■解答 (8点)

豊かな水があるので、日本人はそのありがたさの感覚がマヒしている。

■解説

筆者の主張は、「日本人は水のありがたさの感覚がマヒしている」ことです。そして、後文の「そういうところ」の指示内容が、「豊かな水のある国」であることを理解します。

第二問

■解答 (8点)

人が生きていく道は真っ直ぐとは限らない。

■解説

「町や野や」一本の道に似て「は比喻なので、要点にはなりません。主語が「人が生きていく道は」、述語が「真っ直ぐだとは限りません」。後は、余分な言葉を削ります。

第三問

■解答 (各4点)

- (1) つめこみ式の勉強は役に立たない。
- (2) 勉強には、集中力こそが大事である。

■解説

- (1) 「勉強は」↓「立たない」が、主語と述語。「つめこみ」↓「式の」↓「勉強は」、「役に」↓「立たない」と、それぞれつながっています。
- (2) 「集中力こそが」↓「大事である」が、主語と述語。「勉強には、」↓「大事である」とつながっているのですが、「」があるのです、すぐ下にはつながらないと分かります。

第四問

■解答 (各4点)

- (1) できる また
- (2) ので

■解説

- (1) 「私の今の気持ちはとても言葉にできない。」という一文。
- (2) 「ダイエット中なのに食べすぎた。」という一文。

第五問

■解答 (8点)

日本列島の北方にある北海道は春でもまだ寒い。

■解説

①が中心であることに注意。②を北海道を説明する文に変形して、①に入れ込みます。

問題IV 論理的読解力B

第一問

■解答 (各3点)

- E 過去

■解説

Eに「嫌な思いをした現在」の風景に重ねて「とありますが、過去の風景と重ねて見るのです。」

第二問

■解答 (10点)

- D ↓ B ↓ C ↓ E ↓ A

■解説

各段落の冒頭を見ると、A「つまり」、B「たとえば」、E「だから」と接続語が冒頭にあるので、CかDから始まると分かります。

Cは具体例なので、Dから始めると考えると、「いったい『見る』とはどういうことでしょうか」と問題提起となっています。

「私たちはみな同じ風景を同じようには見えない」が、その問題提起に対する答えとなる箇所、Bがそれを裏付ける具体例です。

Bの最後に「それだけではありません」とあるので、次にもう一つの具体例が来ると分かります。それがCの具体例です。Cの具体例の続きがEで、「だから」という順接でつながっています。最後はAの「つまり」で、今までの主張をまとめているのです。最後にコメディアンの具体例を挙げています。

第三問

■解答 (6点)

- D

■解説

D「いったい『見る』とはどういうことでしょうか。」が問題提起。

第四問

■解答 (6点)

- C

■解説

欠落文に「なぜなら」と理由を表す接続語があることに注意。初対面で会ったときと、二回目に出会ったときには印象が異なる例はC。

第五問

■解答 (6点)

- C

■解説

冒頭に「だから」とあることに注意。「だから」の前が理由なので、Eの前の段落であるCが答え。

第六問

■解答 (各3点)

- ア エ

■解説

- ア ○ 過去に会った印象と重ねて人を見るのであって、その結果、必ず「親しみを感じる」とは限らないから、×。
- ウ テレビに出れば、必ず人気者になるとは限らないので、×。
- エ ○
- オ 「取り違えてみる」わけではないから、×。

問題V 論理的表現力

■解答例 (各10点)

賛成① 犬にも生きる権利があり、えさをあげないと死んでしまうかもしれないから。

賛成② 命がなによりも大切であり、目の前に死にかけている犬がいるなら助けるべきだから。

反対① 野犬を放置すると病気になるったり、人におそいかかる可能性があるから。

反対② 犬を拾って最後までめんどうをみるのでなければ、無責任な同情ではないから。

■解説

一つの事態を様々な面から考えることができるかどうか。賛成の理由としては、「権利」「命」、反対の理由としては「無責任」「ふん」「病気」「おそう」などが考えられるので、そこから正確な一文を作成します。